



蚊除け対策

蚊の活動時期は夏をイメージしますが、実は4月～11月中旬と半年以上もあります。活動するのは気温15℃～35℃といわれています。18℃を超えると、メスの蚊は産卵のため吸血します。蚊にさされると痒くてつらいのですが、それ以上に問題になるのは感染症を媒介し、命を落としかねない危険性があるということです。蚊が媒介する感染症としてマラリア・デング熱・日本脳炎・フィリヤ・ウエストナイル熱・ジカウイルス感染症（ジカ熱）などがあります。



★蚊が反応するもの

人の息に含まれる二酸化炭素、低い温度より高い温度、明るい色より黒い色、汗や足のにおいに反応する。（蚊は足のにおい成分「イソ吉草酸」を好みます。石鹸で足を丁寧に洗うと刺されにくくなります。）

★蚊にさされやすい人

体の大きな人（吐息に二酸化炭素が多い）、お酒を飲んでいる人（アルコール分解のため二酸化炭素が多く発生し息に出る）、汗っかきの人、体温の高い人、服や肌の色が黒い人などがさされやすい。

蚊除け対策グッズ

・虫除けスプレー



成分	特徴
ディート	生後6ヶ月未満の赤ちゃんは使用不可。 ディート濃度 10～12%は生後6ヶ月以上で使用可。 30%は12才以上で使える
イカリジン	日本では2015年から認可された新しい虫よけ。 効果はディートと同程度で、使用年齢制限がなく特有のにおいもない。
ハーブなどの天然成分	蚊の嫌うレモングラス、ミント、ユーカリなどのハーブを使用。 ディートやイカリジンに比べると効果は弱い。

・蚊取り線香

火をつけるとピレスロイド系殺虫剤が、空気中に漂い蚊を殺虫します。忌避効果もあります。換気の良い所の風上において使用しよう。※喘息の持病のある人は要注意です。



・スプレー式蚊とり

空間に浮遊する薬剤で蚊を撃退。天井・壁・床に付着後、再浮遊した薬剤で付近の蚊を殺虫します。



・電気・電池式蚊とり

無臭なので使い過ぎに注意。閉めきった部屋や狭い部屋で使用する場合はときどき換気をしましょう。

・虫よけシール・ブレスレット

アロマ成分を利用している。効果は弱め、効く範囲が狭い。



・吊るしたり網戸に貼りつけるタイプの虫よけ

一般的な商品はユスリカ対象のため、蚊には効果がないので注意しましょう。



屋外に出る時は、白い薄手の長袖や長ズボンで肌を覆ったり、汗や足のにおいはこまめに拭きとったり、虫よけグッズを適切に使用して、蚊にさされないよう気をつけましょう。

加地薬局からのお知らせ等がパソコンからご覧になれます。 <http://www.kaji-ph.com/>

QRコード対応携帯の方は右のQRコードを読み取るだけでURLが表示されます。

携帯版 URL <http://www.kaji-ph.com/k/>

